



白鳳点描

清々しい気持ちになりました

校長 川本 幸則

梅雨に入り不安定な気候が続きます。気候が不安定な時期は、気分が晴れないこともあり、健康管理に気を付けなくてはなりません。しっかり栄養を取り、睡眠で体を回復させて、朝を迎えるようにしています。ときどき、昔痛めた古傷が目覚ましてしまい、憂鬱な気分になることもありますが、先には明るい夏空が待っていると気持ちを切り替えるようにしています



そんな梅雨の時期に、清々しい気持ちになったことがありました。

朝、廊下や階段ですれ違った子どもたち皆が、あいさつをしてくれました。私から声を掛けての返事であったり、子どもからのあいさつであったりしますが、朝から明るくあいさつができたので、うれしくなりました。

コロナ禍の影響か、自分からあいさつできる子が少なかったり、あいさつが返ってこなかったりして、いろいろな場面であいさつについて伝えてきました。最近は、校門で登校する子どもたちを迎えているときも、あいさつができる子が増えてきたと思っていたところでした。

子どもたちから元気をもらって一日のスタートが切れることは、たいへん清々しいことです。

二つ目は、掃除の時間の出来事です。

廊下で、T型のほうきをモップのように押して進んでくる低学年の児童を見かけました。本校では、企業の協力を得て「おそうじ教室」を実施し、ほうきや雑巾の使い方を学ぶ機会を設けていますので、「ほうきの使い方は正しいかな」と伝えてみました。

「あれ？ほうきの使い方って、どうだった？」と。

近くで小ぼうき（荒神ほうき）を上手に使ってごみをはき集めている子がいたので、「ほうきを上手に使えるね」と声を掛けたところ、先ほどの児童も上手にほうきを使い、ごみをはき始めました。

「上手にできるんだ」と伝えその場を去りました。しばらくたって戻ると、先ほどの児童も上手にほうきを使っていました。

翌日、掃除の時間に廊下を見ると、前日にほうきの使い方に気付いた児童が、上手に床をはいていました。

「上手にほうきが使えるね。ありがとう」と声を掛けました。

些細なことではありますが、自分の行動を振り返らせ、やらなければならないことに気付かせて、やっていることを認めました。そして、少し時間をおいて、できていることをもう一度認めることで、子どもたちは強く自信をもって取り組むことができます。

この児童は、これからもほうきを正しく使ってくれることと思っています。

しばらくは梅雨が続き、その後は夏が到来しますが、熱中症への心配が高まります。健康に過ごすためには、栄養補給、睡眠、適度な運動が大切です。健康管理に気を付け、明るい笑顔が輝くようにしていきたいと思えます。